序

ウェルズ恵子先生には、2023年3月をもって定年の期を迎えられます。立命館大学人文学会は、先生のこれまでの御功績を称え、深い感謝の意を表すため、ここに退職記念の論集を編んで献呈させていただくこととしました。

ウェルズ先生は、横浜出身で、1976年4月に津田塾大学学芸学部英文学科に入学され、途中カリフォルニア州立大学ノースリッジ校とカリフォルニア大学サンタクルーズ大学に留学され、帰国後1981年3月に津田塾大学を卒業されました。そして同年4月に同大学大学院文学研究科英文学専修修士課程に入学され、1983年3月に同課程を修了されました。1年間就実高等学校非常勤講師をつとめられた後、1987年4月に神戸大学大学院文化学研究科文化構造専攻博士課程後期課程に入学され、同年9月に同研究科同課程を中途退学され、10月に愛媛大学教養部に専任講師として着任されました。1992年4月に立命館大学文学部英米文学専攻に助教授として着任され、2003年4月に同教授となられています。2012年4月から文学部のコミュニケーション学域国際コミュニケーション専攻の中心となって新しい専攻を築かれ、2020年4月からはそれを国際コミュニケーション学域英語圏文化専攻に展開されています。本学において新しい領域を築き上げられたといえるでしょう。

先生のご専門はヴァナキュラー文学論、音楽文学、アフリカン・アメリカン文化、アメリカ文学・文化、比較芸能文化です。フォークロアの歌詞研究、移民の経験や記憶と物語や歌（声の文化）の伝播・変容に関する研究、その他、別紙にあるように、ご研究は大変幅広いものです。これらの研究の一部は2000年9月よりのフルブライト奨学金でのカリフォルニア大学ロサンゼルス校、そして2007年よりの本学の学外研究制度でのユタ州立大学での研究滞在の成果だときいております。

私自身は、個人的に先生にたいへんお世話になりました。私が立命館大学文学部英米文学専攻での採用が決まった際には、丁寧なお葉書をいただき、京都での家探しのご心配をいただきました。着任1年目の初めての卒業論文試問もウェルズ先生のゼミのもので、試問の方法を教えていただきました。ホイットマンについての卒論が7本、他にブルースに関する卒論などがあったのを覚えています。英語圏文化専攻の先生たちも同様にウェルズ先生からさまざまなことをご教示いただいたのだと思います。

これまで教育・研究で活躍され、また数多くの優秀な教育者・研究者を育成されてきたウェルズ恵子先生は、2023年4月からは特任教授として、引き続き教鞭をとってくださいます。

今後とも、立命館大学、文学部・文学研究科へのご鞭撻を賜ることができれば幸いです。

2023年3月

立命館大学
文学部長　中　川　優　子